

〈あしべ8020（乳幼児歯科保健対策）推進事業事業報告書〉

壱岐市 芦辺支所

★ 事業内容 ★

実施日	内容	出席者
平成15年 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科医師会長と担当保健師が本事業についての内容検討を実施。 ・ アンケート調査実施 (対象)H14年8月～H15年8月までの三歳児健診対象の保護者100名 [健診結果とのクロス集計が可能となるため] アンケート調査集計結果は別添資料①のとおり ・ 委員会のメンバーの選定・・・別添名簿のとおり 歯科医師、歯科衛生士、子育て中の母親、教育委員会、社協、幼稚園、保育所、婦人会、ヘルスマイト、保健所、行政関係 27人 講師：NPO法人ウェルビーイング 	
10月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回【あしべ8020】推進委員会（乳幼児むし歯予防検討会） (内容) 1. 健康づくり（ヘルスプロモーション）の考え方 2. 過去の歯科健診とアンケート集計結果の結果 3. むし歯予防の目標値設定 詳細は別添資料②のとおり 	25人
11月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回【あしべ8020】推進委員会（乳幼児むし歯予防検討会） (内容) 1. 改善すべき保健行動の優先順位と目標値の決定 詳細は別添資料③のとおり 	23人
12月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回【あしべ8020】推進委員会（乳幼児むし歯予防検討会） (内容) 1. 決定された行動計画に対する準備・強化・実現の3因子の抽出 詳細は別添資料④のとおり 	21人
平成16年 3月 4日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回【あしべ8020】推進委員会（乳幼児むし歯予防検討会） (内容) 1. 行動計画について具体的プランの検討 詳細は別添資料⑤のとおり 	22人

【あしべ8020】推進委員会 ～乳幼児むし歯予防検討会～ 名簿

番号	氏名	所属	備考
1	赤 木 昭	赤木玉水堂歯科診療所 歯科医師	
2	百 田 昌 史	百田歯科医院 歯科医師	
3	松 永 泰 裕	松永歯科医院 歯科医師	
4	松 永 美 由 紀	芦辺町教育委員会	母親代表
5	深 見 誠 子	幼稚園連絡協議会 幼稚園教諭	
6	横 山 紀 恵	芦辺保育所 保育士	
7	有 浦 好 美	八幡保育所 保育士	母親代表
8	永 田 信 弘	芦辺町社会福祉協議会 事務局長	父親代表
9	辻 川 弘 子	芦辺町婦人会連絡協議会	祖母代表
10	小 川 道 子	芦辺町ヘルスマイト代表	祖母代表
11	松 田 秀 子	芦辺町民生・児童委員会代表	祖母代表
12	下 川 貴 子	母親代表	ヘルスマイト
13	松 山 な お み	母親代表	
14	菱 谷 美 知 代	母親代表	
15	長 嶋 和 美	母親代表	
16	南 川 都 始 美	母親代表	
17	長 岡 初 恵	松永歯科医院 歯科衛生士	
18	小 幡 怜 子	壱岐保健所 地域保健課 保健師	
19	西 村 善 明	健康長寿課長	祖父代表
20	松 永 比 登 美	健康長寿課長補佐 保健師	
21	増 田 誠	健康予防係長	父親代表
22	小 金 丸 茂 美	健康予防係 保健師	
23	畑 津 美 都 子	健康予防係 栄養士	
24	佐 藤 広 美	在宅歯科衛生士	
25	山 川 喜 世 子	在宅歯科衛生士	
26	大 浦 五 九 子	郷ノ浦町役場 栄養士	
27	山 内 和 美	郷ノ浦町役場 保健師	

6. 準備因子
 断乳とむし歯の関係がわからない
 断乳の理想的な時期
 1歳半以前
 おやつや保管場所
 代用甘味料を選ぶ
 フッ素入り歯磨剤を選ぶ
 フッ素はむし歯予防に効果がある
 予防に多少のお金をかけるべき
 定期健診に連れていこうと思う
 知っている言葉

断乳とむし歯の関係がわからない	14%	24%
断乳の理想的な時期	91%	80%
1歳半以前	53%	66%
おやつや保管場所	37%	23%
代用甘味料を選ぶ	86%	56%
フッ素入り歯磨剤を選ぶ	94%	70%
フッ素はむし歯予防に効果がある	76%	70%
予防に多少のお金をかけるべき	91%	85%
定期健診に連れていこうと思う	91%	85%
知っている言葉	96%	91%

7. 強化因子
 周りの家族の助けがある
 離乳食
 仕上げ磨き
 定期健診で家族の協力が必要
 近所の人からおやつをもらう
 指導がよかった
 離乳食
 おやつ
 歯磨き
 定期健診のすすめがあった
 フッ素塗布を欲けて受けた

周りの家族の助けがある	81%	70%
離乳食	70%	74%
仕上げ磨き	86%	66%
定期健診で家族の協力が必要	17%	19%
近所の人からおやつをもらう	86%	89%
指導がよかった	89%	85%
離乳食	100%	92%
おやつ	81%	41%
歯磨き	83%	90%
定期健診のすすめがあった		
フッ素塗布を欲けて受けた		

8. 実理因子
 指導の経験有り
 離乳食
 おやつ
 歯磨き
 フッ素に関する情報源がある

指導の経験有り	84%	67%
離乳食	84%	49%
おやつ	96%	59%
歯磨き	100%	79%
フッ素に関する情報源がある		

誰からどこから？
 歯科医院
 保健所・保健センター
 幼稚園・保育園
 本やテレビ
 友人・知人
 乳健
 その他

歯科医院	32%	34%
保健所・保健センター	46%	80%
幼稚園・保育園	34%	3%
本やテレビ	7%	1%
友人・知人	18%	3%
乳健	18%	3%
その他		

知っている言葉
 シーララント
 六歳白歯
 フッ素洗口
 つっこみ磨き
 フロス
 フッ素塗布
 フッ素スプレー(レノビ-G)
 フラック
 ミュータンス菌
 仕上げ磨き

シーララント	31%	10%
六歳白歯	33%	39%
フッ素洗口	80%	14%
つっこみ磨き	13%	3%
フロス	86%	91%
フッ素塗布	96%	84%
フッ素スプレー(レノビ-G)	69%	10%
フラック	61%	58%
ミュータンス菌	36%	41%
仕上げ磨き	96%	91%

4. ライフスタイル
 断乳の時期(1歳半以降)
 離乳食が段階的に進められた
 哺乳ビンにジュース
 おやつが3回以上
 甘い味を覚えた時期(2歳以上)
 いつもスポーツ飲料を飲む
 乳酸飲料を飲ませている
 仕上げ磨きの実施
 フッ素入り歯磨剤の使用
 フッ素塗布の経験
 年2回以上の定期歯科健診

断乳の時期(1歳半以降)	11%	14%
離乳食が段階的に進められた	90%	89%
哺乳ビンにジュース	33%	34%
おやつが3回以上	10%	6%
甘い味を覚えた時期(2歳以上)	13%	19%
いつもスポーツ飲料を飲む	7%	9%
乳酸飲料を飲ませている	19%	29%
仕上げ磨きの実施	56%	57%
フッ素入り歯磨剤の使用	79%	51%
フッ素塗布の経験	93%	18%
年2回以上の定期歯科健診	23%	11%

1. 属性・5. 環境因子
 対象者数(単位:人)
 有効回答数(単位:人)
 有効回答率
 対象者の性別
 男女
 祖父母との同居率
 子どもの世話(祖父母)
 平均兄弟姉妹数
 兄弟数

対象者数(単位:人)	100	100
有効回答数(単位:人)	70	172
有効回答率	70.0%	
対象者の性別		
男	53%	53%
女	47%	47%
祖父母との同居率	66%	26%
子どもの世話(祖父母)	33%	9%
平均兄弟姉妹数	2.3	2.0
兄弟数		
1人	13%	30%
2人	49%	48%
3人	30%	19%
4人以上	9%	3%
出生順		
第1子	34%	51%
第2子	41%	37%
第3子	20%	12%
第4子以降	4%	1%

誰からどこから？
 おやつ
 フッ素
 歯磨き

おやつ	15%	24%
フッ素	67%	12%
歯磨き	51%	5%
	28%	28%
	11%	4%
	4%	21%
	4%	48%
		3%

歯磨き開始時期
 1歳以前
 1~1歳半
 1歳半~2歳
 2歳以上

1歳以前	55%	41%
1~1歳半	30%	41%
1歳半~2歳	9%	17%
2歳以上	6%	0%

フッ素塗布の場所
 歯科医院
 保健所・保健センター
 その他

歯科医院	37%	80%
保健所・保健センター	91%	7%
その他	8%	10%

3. 健康
 一人平均ウ蝕数(本)
 ウ蝕有病者率

一人平均ウ蝕数(本)	3.39	1.57
ウ蝕有病者率	52.5%	37.4%

歯磨きしない理由
 余裕なし
 嫌がる
 面倒
 方法を知らない
 その他

余裕なし	42%	32%
嫌がる	42%	59%
面倒	16%	8%
方法を知らない	0%	5%
その他	10%	8%

2. QOL
 歯が原因で...
 ごはんが食べられなかった
 夜眠れなかった
 園を休んだ
 治療に時間がかかった
 治療にお金がかかった
 治療に連れていくのが大変
 その他

ごはんが食べられなかった	3%	1%
夜眠れなかった	3%	1%
園を休んだ	0%	0%
治療に時間がかかった	4%	2%
治療にお金がかかった	9%	1%
治療に連れていくのが大変	13%	5%
その他	4%	3%

困りごとがある人
 平均困りごと数

困りごとがある人	31%	12%
平均困りごと数	0.25	0.13

スポーツドリンク
 いつから
 きっかけ

いつから	13%	13%
きっかけ	12%	16%
病気の栄養補給	67%	66%
兄弟	33%	35%
身体によい	12%	20%
ほしがる	21%	33%
CM	0%	4%

乳歯用飲料
 いつから
 きっかけ

いつから	15%	16%
きっかけ	0%	2%
病気の栄養補給	15%	14%
兄弟	46%	41%
身体によい	62%	51%
ほしがる	54%	82%
CM	0%	6%

定期健診の動機(何処)
 歯科医院
 保健所・保健センター
 幼稚園・保育園
 本・テレビ
 友人・知人
 その他

歯科医院	34%	9%
保健所・保健センター	53%	13%
幼稚園・保育園	7%	2%
本・テレビ	6%	9%
友人・知人	0%	8%
その他	1%	3%

定期健診の内容
 フッ素塗布
 シーララント
 歯磨き指導
 おやつ指導
 わからない

フッ素塗布	100%	64%
シーララント	32%	0%
歯磨き指導	63%	36%
おやつ指導	47%	0%
わからない	0%	0%

別添資料②

第1回【あしべ8020】推進委員会（乳幼児むし歯予防検討会）内容

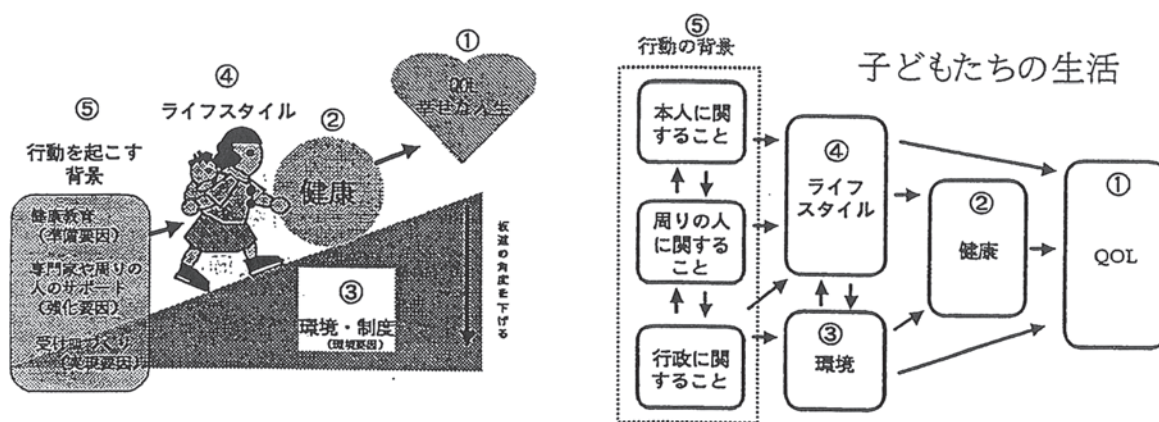
- 1) 健康づくりの考え方（ヘルスプロモーション・MIDORIモデル）について、NPO法人ウェルビーイングを講師にむかえ研修した。

ヘルスプロモーション

● オタワ憲章(1986)
ヘルスプロモーションとは人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである。

- ・ 21世紀の新しい健康戦略（1986年WHO）
- ・ 健康課題ではなくQOLの向上にゴールを設定
- ・ 主役は住民、ライフスタイルに着眼
- ・ 本人に対する健康教育だけでなく環境の整備をも視野に入れている
- ・ 生活あらゆる場が健康づくりの場としている

【MIDORI モデル】

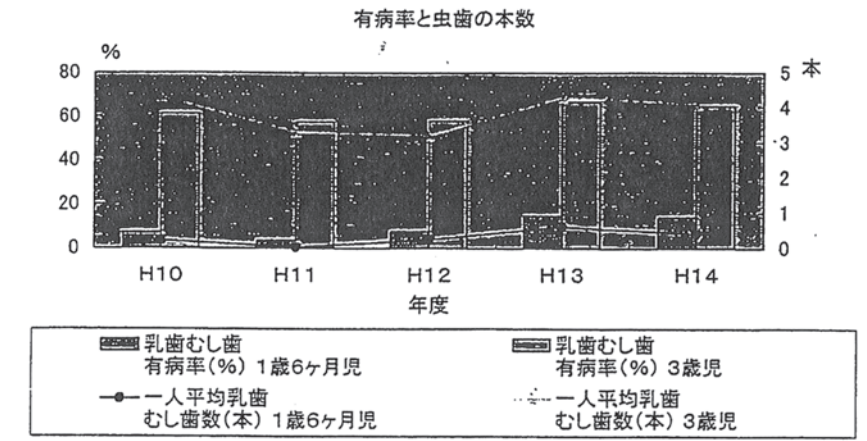


- 2) 過去の幼児歯科健診の結果とアンケート集計結果からみえたこと。アンケートについては、Y市を比較対照としてみていった。

- ・ H10年から歯科医師や在宅歯科衛生士の協力をえて、乳幼児期の歯科指導を開始し、H13年度からは県モデル事業によりフッ化物塗布を実施するが、むし歯の状況は変わらなかった。フッ化物塗布を確実に行えばむし歯は減るのであるが、実際は受診率が低く効果がでていない。
- ・ 祖父母との同居が6割強で、保育者が祖父母であるのが3割で他地域より多く特徴的な環境。
- ・ 歯について困りごとが3割あり、中でも治療に連れて行くのが大変という割合がおおかった。行くには家族の協力が必要と思っているのが8割であった。

- ・ 哺乳ビンにジュースを入れて飲ませているが3割と多かった。
- ・ おやつを1日に3回以上与えているが1割あった。
- ・ 仕上げ磨きを実施しているが5割と少なく、できない理由としては、時間の余裕がないと面倒が6割あった。
- ・ 定期健診の勧めをうけたり、フッ素塗布を続けて受けたいと思っているが8割であった。

1歳6ヶ月児、3歳児の幼児歯科健診結果の推移（過去5年間分）



乳歯むし歯有病率(%)

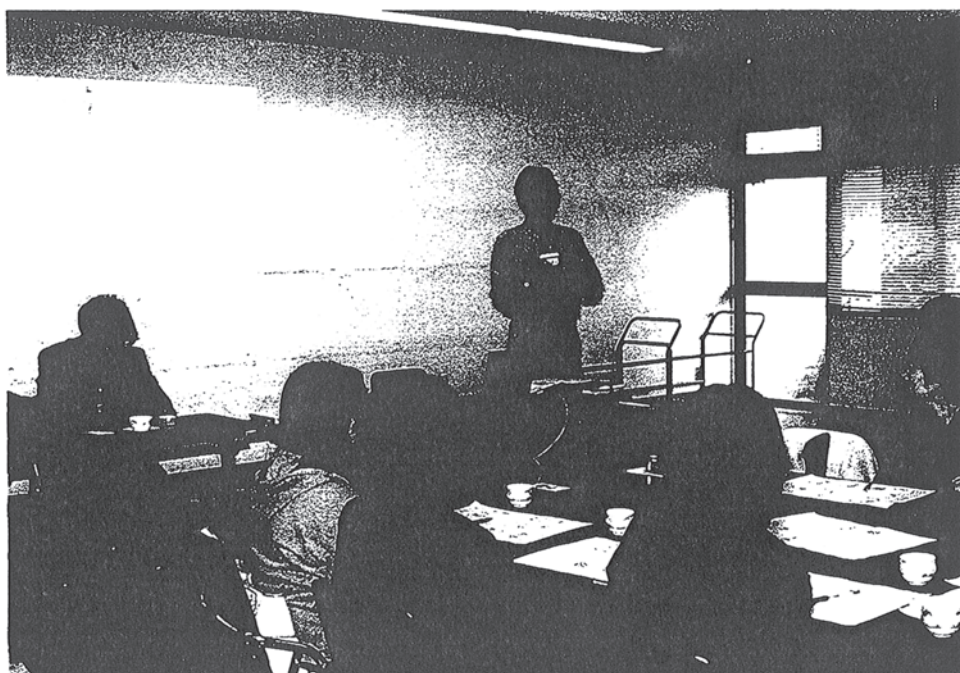
	H10	H11	H12	H13	H14
1歳6ヶ月児	7.2	3.8	7.6	14.7	14
3歳児	61.3	57.5	58	66.7	64.9

一人平均乳歯むし歯数(本)

	H10	H11	H12	H13	H14
1歳6ヶ月児	0.22	0.03	0.24	0.62	0.41
3歳児	4.3	3.3	3.2	4.3	4.1

- 3) 3歳児の一人あたりのむし歯本数が、現在3.4本を3年後に？本に改善するか、ディスカッションしながら目標値を決定した。

★ 現在3.4本を3年後には1.5本へ



別添資料③

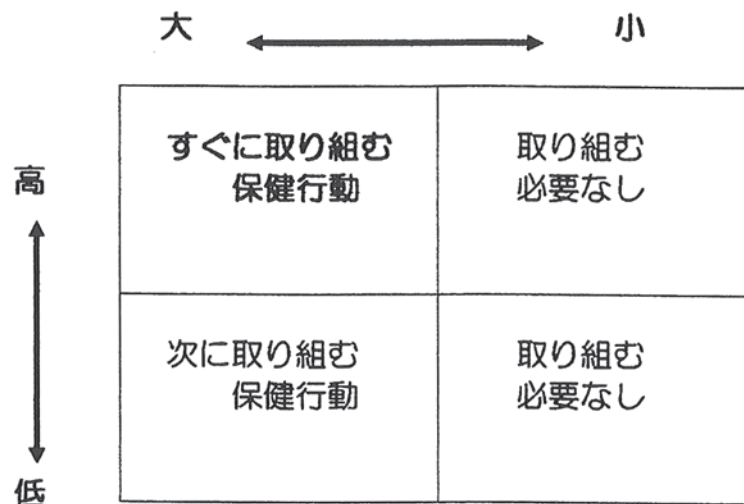
第2回【あしべ8020】推進委員会（乳幼児むし歯予防検討会）内容

- 1) アンケートの結果から、改善すべき保健行動（ライフスタイル）をあげ、その中で効果が大きく、実現の可能性が高いものをディスカッションしながらだしてみた。

改善すべき保健行動（ライフスタイル）

①哺乳ビンにジュースを入れて飲ませる	33%
②おやつを1日3回以上食べる	10%
③甘い味を覚えた時期は2歳以上である	13%
④仕上げ磨きをしている	56%
⑤定期健診を年2回以上受ける（フッ化物塗布）	23%

この中から、効果が大きく、実現の可能性が高いものを下記の表に入れながら考えてみた。



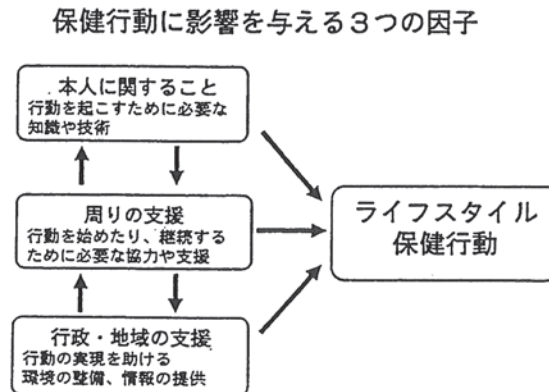
検討の結果、取り組むテーマを以下の3つに絞り込んだ。

- ★「哺乳ビンにジュースを入れて飲ませる」割合の33%を10%に減らす。
- ★「おやつを1日3回以上食べる」割合の10%を5%に減らす
- ★「定期健診を年2回以上受ける（フッ化物塗布）」割合の23%を50%に増やす。

別添資料④

第3回【あしべ8020】推進委員会（乳幼児むし歯予防検討会）内容

- 1) 前回の会で決定した《哺乳ビンにジュースを入れない》《おやつ回数を減らす》《定期健診を受ける（フッ化物塗布）》3つテーマを、3グループにわかれて具体的に準備因子（本人に必要なこと）、強化因子（周りの人や地域でできるサポート）、実現因子（行政の役割）をだしていった。



《哺乳ビンにジュースを入れない》 33%を3年後には10%へ

～本人に必要なこと～

- ① 哺乳ビンにジュースを入れて飲むことが、歯にはよくないことを理解する
 - ・ むし歯や歯並びに影響する
- ② 哺乳ビンを使わない、使用の回数を減らす、習慣づけから遠ざける
- ③ 砂糖がむし歯を作る要因であることを理解する
 - ・ 飲料類の中身をよく知る
 - ・ ジュースがよくないことを知る
- ① ジュースは買わない、買い置きをしない
- ② お茶、白湯を飲ませる
- ③ 離乳についてよく理解する
- ④ ジュースを飲んだら、水でうがいする

～周りの人や地域でできるサポート～

- ① 甘いものをむやみに与えない
- ② 子供にジュースを飲ませてよいか親に聞く
- ③ 遊びにいてもおやつやジュースをあげない
- ④ 親もジュースを飲まない
- ⑤ 砂糖ダメ・ゼットイ運動
- ⑥ 甘い飲み物一見せない・買わない・飲ませない運動

～行政の役割～

- ① 行政からの情報としてお母さん達に伝えているが、もう少しわかりやすくする
 - ・ お茶の利点を強く訴える
 - ・ 歯に悪いことを強く伝える
- ② 糖分を展示する 健診の時など必ず、何度も
 - ・ スポーツドリンク、ジュース、おやつなど
- ③ 7ヶ月健診時、マイコップ進呈

《おやつ回数を減らす》3回以上：10%を3年後には5%へ

～本人に必要なこと～

- ① 食事やおやつ時間、回数を決める
 - ・ おやつは1日2回まで
 - ・ 規則正しい生活リズムを作る
- ② おやつ保管場所を決め、子供の目につかない・手の届かない所にする
- ③ おやつ内容、量を決める
 - ・ 自然なもの、手作りに
 - ・ チョコレートは絶対買わない
- ④ おやつまとめ買いをしない
- ⑤ 子供のわがままを聞かない
- ⑥ おやつは補助食であることを理解する

～周りの人や地域でできるサポート～

- ① むし歯になるおやつを与えない
- ② 泣いたら＝おかしを与えるという意識をもたない
- ③ 店に歯によいお菓子をおいてもらう
- ④ おやつ与えすぎ（砂糖を含んだおやつ）が、子供の歯の健康によくないことを理解してもらう
- ⑤ 婦人会・老人会などで理解してもらう
- ⑥ 大人も歯によいものを食べるようにする
- ⑦ 食べたら磨く習慣をつける
- ⑧ 乳歯の大切さを知ってもらう（乳歯でむし歯だと永久歯にも影響すること）
- ⑨ 歯科医院でもおやつ与えすぎるとよくないことを教えてもらう

～行政の役割～

- ① 歯によいおやつ調理実習をする
- ② 保育所・幼稚園でのおやつ検討と保護者指導（連携）
- ③ 祖父母に対してのおやつ・むし歯についての講習会をする（祖父母学級）
- ④ 広報紙の活用（むし歯、おやつのことなど）
- ⑤ 子供が1歳になる前からおやつについて話をきく機会をつくる

《定期健診を受ける（フッ化物塗布）》 23%を3年後には50%へ

～本人に必要なこと～

- ⑤ 現状を知る（こんなにむし歯の多い子が多いんだ、ということを知る）
- ⑥ 正しい知識を持つ
 - ・ 歯の健康づくりの重要性、健康とのかかわり
 - ・ フッ化物の効果と安全性
 - ・ むし歯による健康被害について
- ⑦ 定期健診につれていく（その時間を確保するため家族の理解、協力がある）
- ⑧ 親の忍耐力

～周りの人や地域でできるサポート～

- ① 正しい知識を持つ
 - ・ 婦人会などで歯について意識の向上をする
 - ・ 歯の健康づくりの重要性
 - ・ フッ化物の効果と安全性
- ② 家族の協力（健診へ行く時間を与える）
- ③ 家族ぐるみで歯科健診を受ける
（子供から高齢者まで、誕生日には歯科健診を受けるという意識を持つ）
- ④ 健診場所が子供にとって楽しく過ごせるような場にする
 - ・ お遊びルームの設置
 - ・ 診察台の工夫

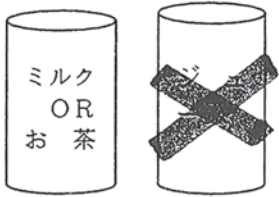
～行政の役割～

- ① 受診券（塗布券）の発行、歯科管理手帳の発行
- ② 定期的に通知をして、もれないようにする
- ③ 3歳以後は、歯科医院へつなく。そのため、初回は受診券をだす
- ④ 保育所の定期健診の際、フッ化物の塗布をする
- ⑤ 歯科健診だけでなく、例えば予防接種など他の事業と合わせて実施する。（仕事をもつ親には助かる）
- ⑥ 健診を受けるごとにシールなどをはり、意識をもたせる

別添資料⑤

第4回【あしべ8020】推進委員会（乳幼児むし歯予防検討会）内容

1) 《哺乳ビンにジュースを入れない》《おやつ回数を減らす》《定期健診を受ける（フッ化物塗布）》3つテーマから、前回の会で抽出した3因子をもとに具体的な計画を各グループで検討した。

《哺乳ビンにジュースを入れない》	
事業形態	計画内容
PR活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャッチコピーシール 大・小のシール作成 大シール・・・歯科医師会、商工会などに 小シール・・・母子手帳に 発行元は行政ではなく、歯科医師会や母親部会などで「子供の歯を守る会」を発足したらいいのでは。
個別集団 健康教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲み物に含まれる糖分の展示 老人クラブ、婦人会、健診、病院（歯科・産科） ・ 哺乳ビンを使い続けることによるデメリットを伝える。むし歯・歯並びなど <ul style="list-style-type: none"> * 妊娠中、産後・・・両親学級や病院では助産師から伝える * 乳児健診時・・・行政・小児科でパンフを使用し説明 * 園だより・・・保育所のおたよりでも広報する
	
《おやつ回数を減らす》	
事業形態	計画内容
PR活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災無線で毎日15:00に1分間「おやつ回数2回まで！」と放送してみる。理由や目標を入れて ・ ポスターの掲示 <ul style="list-style-type: none"> * 壁にかけられるようなもの、キャラクターもの * 教育委員会へ働きかけて、小・中学校生に書いてもらう * スーパー、お店、歯科医院、病院にも貼ってもらう ・ ターゲットを絞ってPR ・ 常に目や耳から入るように広報する。 ・ パンフを配布し納得してもらう ・ 買い物袋に「おやつは一日1回」にしよう！などのPRロゴを入れる。 ・ スーパー、商店への協力をお願いしてみる。

<p>個別集団 健康教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ おやつとの与え方について、早い時期から指導し知識をもってもらおう。 <ul style="list-style-type: none"> * 妊婦への教育（両親学級、行政の窓口対応時に） * 老人会・婦人会で孫教育（躰や泣いた時の対応の仕方、おやつとの与え方など） ・ 親へ歯科データ（現状等含む）を伝える。写真の利用（とけた歯） ・ 歯によいおやつ、昔ながらのおやつを推進 <ul style="list-style-type: none"> * 老人会や婦人会、公民館などでヘルスマイトが紹介する。簡単に作れるもの、アレンジできるものを。ヘルスマイトのPRも行う。「おやつ回数を増やさない」目的を明確に説明をして。 ・ ハイリスクの家庭への個別訪問をして指導する。 ・ 保育所や幼稚園などで紙芝居を通して、おやつやむし歯について子供たちに理解してもらう
<p>環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家にいるとおやつをダラダラ食べるので外で遊んで忘れさせる。 ・ 歯ブラシをいつももたせる ・ スーパー、商店へ協力してもらいお菓きの段を上にもってもらう。 ・ いき8020のHPを作って、情報提供や相談コーナー、支援サービスの紹介をする。

《定期健診を受ける（フッ化物塗布）》

事業形態	計画内容
PR活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災無線の利用 回覧板の利用 ・ 市報の8020コーナーをつくる ・ 歯の日を決めて啓発する。
個別集団 健康教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、親にむし歯になると大変だということを強く認識させる。そこで歯科医院へ足をむかせるようにする。 ・ 婦人会・老人会などで現状を伝え、住民に正しい知識をもてるようにする。
環境整備 システムづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科医院の休日・夜間診療を。月1回、休日に子供のための歯科診療日をつくってもらう。 ・ 保育所・幼稚園の歯科健診で、定期的にブラッシング指導、フッ化物塗布が受けられるようにする。（歯科校医の協力） ・ 歯科医院のリコールシステムの確立 ・ 行政のリコールシステムの確立 ・ 歯科管理手帳の配布 <ul style="list-style-type: none"> * 記録（指導内容）の積み上げ、次回の予定の確認

★ 事業による効果及び今後の課題 ★

1. 今回の計画策定では、住民参加・住民参画によるヘルスプロモーションの方法を用いたものであり、住民・歯科関係者・行政とが密接な連携を図りながら参加者全員で目標設定ができたので、今後事業展開をする上でますます連携をとりやすくなった。
2. この事業をすすめる際、吉岐4町が合併し平成16年3月で「吉岐市」になることが決定していたので、委員会の中に他町の歯科医師や保健師等にも参加してもらったことで、吉岐市として取り組める基礎ができた。今後、吉岐市歯科保健推進協議会の設置にむけ歯科医師会と協議しながら進めていく予定である。
3. 今回4回の委員会では、問題点を明確にし住民の意見をもとに、生活に即した行動計画づくりができた。そこで、まずは歯科医師会の協力により、芦辺町で実施していた幼児歯科相談事業がこの4月から吉岐市として実施できるようになった。今後は、芦辺町で実施したノウハウを吉岐市の計画に活かしていきたい。

最後に・・・

今回の事業に取り組むにあたっては、合併を目前にしていたので実施すべきか大変悩みました。平成10年度から歯科推進協議会を設置し歯科保健を推進しているにもかかわらず、乳幼児のむし歯がなかなか減らないことから事業の見直しが必要と考え、NPO法人ウェルビーイングのご指導をえながら取り組むことにしました。従来の行政主導の考え方から、住民主体のヘルスプロモーションの考え方は住民のパワーを感じ、関係者すべてが問題点や目標を共有し事業展開できるので活動の推進がしやすくなると思いました。今後も、住民の生の声を聞きながら、関係者が知恵を出し合って取り組めるよう進めていきたいと思えます。

この度、本事業に助成をいただいた財団法人8020推進財団、ご指導いただいた地元歯科医師会とNPO法人ウェルビーイングに対しまして感謝申し上げます。

